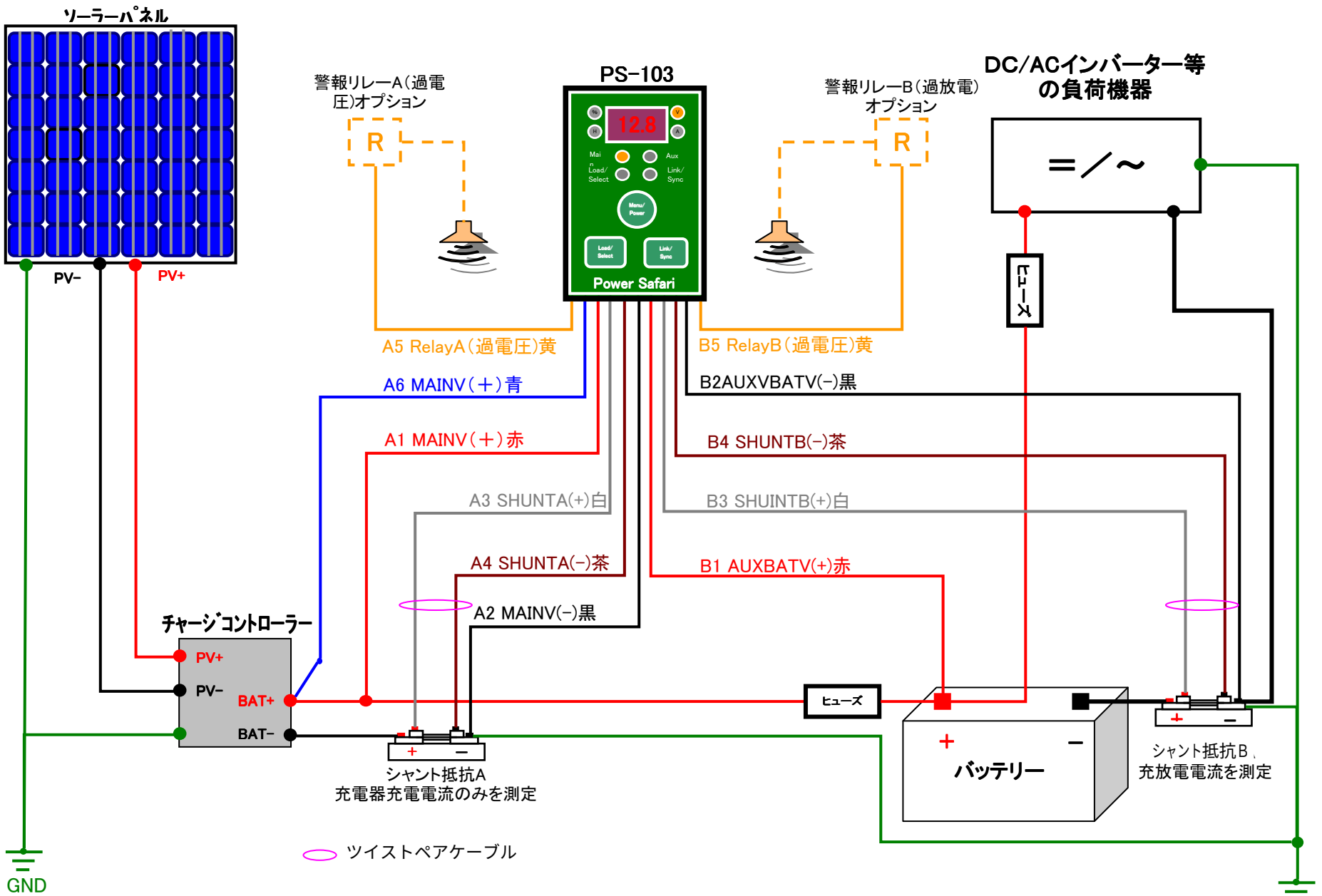

※GNDは可能な限り１箇所で纏めて接続する事を推奨します。
また、シャント抵抗A及びシャント抵抗Bのマイナス側はGND接続点にて必ず交わる事が必須です。